

ぶらっと五個荘での

おもてなし

山脇 隆

まちなみ保存交流館前の駐車場をお借りして、子供達が楽しんでいただけるよう、金魚すくいやキャラクター風船かき氷等を販売しました。またその奥では、前回も好評だったよもぎ餅とお抹茶のセットでおもてなしをいたしました。また、炊込みごはん・焼きそば・かりんとう等の販売で、駐車場一杯が大いに賑いました。



交流館前駐車場

早朝からの餅の製造、また炊込みごはんは当日の朝四時よりご飯を炊いていただき十時までに仕上がるよう、頑張っておもていただきました。皆さんの協力により、今回も盛大に「ぶらっと五個荘」を終えましたこと、心より御礼申し上げます。

福地 真一

今回も能登川ライオンズクラブから、「ぶらっと五個荘まちあるき」で、販売された焼きとうもろこしの売上金全額を鯉基金へ寄付していただき



能登川ライオンズクラブの活動

福地 順子

ました。能登川ライオンズクラブは、旧能登川町・五個荘町地区で、友愛と奉仕の精神のもと、社会奉仕活動を展開されておられる団体です。

鯉基金への寄付は、平成十八年からいただき、今回で七回目です。当初心配していた雨も、皆さんの情熱や心意気には勝てなかつたようで、雨も徐々に上がり用意した焼きとうもろこし二百本を完売することができました。

能登川ライオンズクラブの方々と一緒に販売しながら、

貴団体への感謝の気持ちと、お互いの絆を強く感じました。献身的な活動と愛郷心に、心よりお礼申し上げます。

毎年、「ぶらっと五個荘まちあるき」に多くの方が金堂に来てくださいます。

古い町並み、川の流れに大きな鯉、ゆったりと時間が流れる空間を楽しんでくださっているようで、来てくださる方々の表情がとても柔らかいです。

イベントが始まる前に必ず西村理事長が、あいさつの中で「お客さんをおもてなしの心で迎えてください」と言われます。

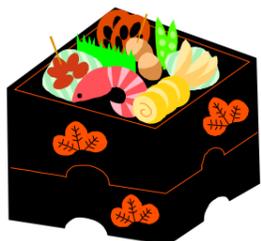
「おもてなし」をさせていただく者は相手の心に寄り添い、少しでも喜んでくださるように、気持ちを寄せます。「毎年来てるよ」と言ってくださる方にも多く出会わせ



ぶらっとでのおもてなし

ていただき、迎えている者が、かえって嬉しい気持ちになります。

「また来たいな」と思えるのは、魅力ある町なみだけでなく、そんな気持ちのふれあいなかもしれないと感じた一日でした。



交流館だより

会員皆様のご支援により、交流館も五年目を迎える事ができました。

振り返ってみますと、自治会の仮事務所として一室を借用しながら、十ヶ月余り旧富十郎邸を見てきましたが、今後まちなみ保存会の基地として、どの様に運営して行くのか心配でした。修理はされたものの、三十年余り居住されていない家屋の、何となく物寂しい雰囲気が漂っていたか



びわこビエンナーレの作品展示

らです。

しかし当番制が導入され、終日交流館が開館。館内には話声が響き、人の往来が増した今、再び家屋に息が吹き込まれ、温かみが戻った様に感じます。会員で作った休憩所では、話や笑いが渦巻いています。

保健所の許可も得た清潔な厨房、コーヒーマシンの接待で観光客も「ほっと一息」。この様に家屋に陽が射し、交流館も賑わい、会員同士の社交の場・情報交換の場ともなりました。

漫談家・綾小路きみまろさんの「あれから四十年」の名セリフのように、将来のビジョンを描きながら、交流館の理念である「学びの場・生きがいの場・おもてなしの場」として、これからも益々発展する様、努力を重ねて参りたいと思っております。尚、最近の保存会の活動としては、

館内の展示

九月〜十一月上旬

・びわこビエンナーレ(芸術作品)の展示

・錦鯉の寄付 八月十二日宮川町の桐山さんから二十七匹、九月二十六日には佐川印刷株式会社社長の会長さんより約百四十匹の立派な錦鯉を頂き放流しました。

(小杉 富男)



寄贈いただいた鯉の放流

修理の相談は交流館へ!

伝建地区内で建物を修理・新築する場合は、事前に必ず金堂まちなみ保存交流館へご相談ください。

先進地視察研修を

終えて

快晴に恵まれた十一月十日、先進地高山三町へ向かうバスの車窓から見える景色は、進むにつれて紅葉がどんどん深まり、研修旅行とは言え心が浮き立つようでした。

今回は伝建地区防災対策の研修ということで、地区内を歩きながら担当者の方の説明を受けました。

高山は、過去に幾度も大火に見舞われた経験から、防火意識も高く、地区の随所に消火栓や消火道具一式を備えた収納庫がありました。また土地の高低差を利用して、地下の貯水タンクから水路に水を流せる仕組み等もあり、関心頻りでした。地区のそこかしこに火伏せの祭神「秋葉さま」を奉った祠があり、趣のある町並みに溶け込んだ、防火への痛切な願いを感じました。



高山での研修の光景

その地域の特色ある建造物が保存され、観光資源として有効活用されているのを見て、金堂もかくあれと願わずにはいられません。約一時間あまりの見学があつという間で、もう少し見てみたいなああと心を残しながら、おいしい昼食をいただいた後、帰路につきました。

案内して下さった方の「どんな備えよりも一番の備えは、火を出さない事ですな」の言葉に、深く共感した次第です。

(久保 陽子)